夕刊 磐城新聞
二月二十五日發行
定價 一ヶ月金五十錢 一部金五錢
發行所 磐城新聞合資會社
(日曜祭日翌日休刊)
振替東京一〇八五五六五番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩も明日も北西の風晴

科學漫筆 酒と砂糖(三)

醫學博士 五十嵐雄二

一、酒の巻

アルコールの心理的効果

ローゼマンといふ學者がドレスデンの衛生學會で講演したのに『アルコールは心理的不快の感を止むるを以て適當の時機に用ふれば心身の慰安に効果あり』といつてゐる、日本に於ける憂ひを拂ふ玉箒と異語同様である。仕事に於て又對人關係に於て絶へざる心勞や不快な事の多い現代生活に於てはこの意味に於ても一般の必需品といつてよからう。一本の晩酌に一席の宴會に陶然と酔ふて一切の苦惱を忘れグッスリ熟睡して翌朝の元氣を恢復することは不安の多い今日の世相に於ての唯一の慰安であり法悦ではあるまいか。嘗て社會の秩序が亂り進歩を害するものとして酒を排撃した米國人も酒なき社會の不安や缺陥を體驗し酒の女神は再び北米大陸へ呼び迎へられたものである。

アルコールの害毒

社會の多數に虐げられた酒に對しその寃を雪ぐべくアルコール禮讃の筆を振ひ過ぎた私はここに不利な方面も述べなければならない。ランペルといふ學者が種々動物試驗の結果、一〇%のアルコールは總ての生活細胞を害すると結論した。嘗地醫學上から觀てもアルコールの濃い酒を飲めば消化器系は勿論泌尿器系をも害することは明かである。胃炎を起し腸を害し肝臓を傷め胃臓を害することは日常經驗する所である。だから焼酎やウヰスキーの様な強烈な酒を殊に空き腹に用ふることの如きは大害のあることは説く迄もない、又ブランデーやウヰスキーでなくとも、多量の酒を多年鯨飲して居れば内臓諸器官の脂肪變性を起しその機能を衰退やしめることは事實である。この現象は敢て酒にのみ限つたことではなく、體脂肪形成にあづかる食物即ち澱粉、糖、脂肪類等皆然りである。要するにかゝる害毒は結局過飲の害であつて一本のビールが又一合の日本酒が必ずしも有害に使用するとはいはれない、肴を前にチビリ／＼飲む晩酌の酒が直ちに胃粘膜を損するといふことは決してないのである。

冬點眺……

上田冷人

印月・冬眠の野は覆面を剝ぎ――木枯は僞りの姿と迷妄の言葉とを拂ふ。向きた、吹雪に目眩み、天と地の定めもなき原野の果に、
無有の精は休息ら
幽かにして戀む迷へる、
嵐は僕の胸を不斷に沾す、
微かなる歎息のホイツル…
冬眠は野面にいまいま天氣
鶏は心なく『爵憂』を追拂へ
修道女のフエスとフイスの
涙に滿ち濡ふなり。
一九三八、一月――
詩集『亡靈篇』より

樂しく生きん(上)

西村生

◇…我ら樂しく生きん つねに光明を前途に抱いて、明朗の心境を持して、爲し、爲し能はざるなしの信念の下に。

◇…これは我らが至上なるものから與へられた『天賦の特權』である。生物の本体である。また生命のまことの意味である。この定義はいつの世、いかなる時代にも變改はない。そしてこの事實をそのまゝ素直に認め、そのまゝ信受することが日本精神であり、日本民族の徳性である。

◇…これは迷夢を斷つたところの明智であり、ただに素直な『信受』である。そしてそれは最も大なるものいや高きものに對する信賴であり、歸命であつて、それは與へられた狀態に對する言葉なき融會冥合である。

◇…嘗ての我らは懷疑主義者であつた。疑ふことを以て人類の特徴であるとし、それが人間の産み出した知識であり、それが『科學精神』であるとした。この二者の相違は初めから態度の相違であつて、科學精神、唯物的辨證法を以てしては永久に『信』を得ることはできない。

2月26日
――△各省官制公布す(明治一八)△東洋モス爭議惡化七十名檢束さる(昭和五)△新派俳優の巨頭福井茂兵衛氏歿す(同)△二、二六事件起る(同一一)

兒卒業中學賦示

珠雲 小野務平

螢窓雪案 辛類
今日業成開笑顏
學海汪洋何有極
勿輕前路幾重關

講談 髑髏組(どくろぐみ)

(124) 林杢兵衛作 金子士郎畫

未練(三)

『さうか、若え身そらだ、たまにやア宿場女郎を相方に、茶屋酒の香を嗅ぐも氣散じでよからう。いや、駕籠の用ぢやなくて、お前ンちに一寸ばかり訊きてら事をあつてなア』

茂十の態度がやはらいだ

『へえ、それやまた、どんなことで御座んした』

勘太が、故意と解せないと云つた顏つきで、空々しく訊き返した。

(さては、例の一件だな)

とは、心で充分に察してゐながら……。

『きのふ、如月かん、お前ンちが乘せて出たあの男の事だ』

『あゝ、息子の出先を探し廻つてゐた御隱居のことで御座んすか』

『さうだ、ありア事實、本郷の藥茶屋、宇治政の隱居だつたのか』

『さア、どうとも判りやせんねえ、今、改めて親分からそう仰有られて見ると、どうも少し變な老爺で御座んしたよ』

『あれからお前ンちは、宇治政まで送つたんぢやないのか』

『いゝわ、あつし共もそのつもりで居りやした。ところが途中から模様變へになりやしてね、何んでも小川町邊で御座んした。此處で降して呉れろと云ふものですから……』

『其處で降ろした……と云ふのか』

『へえ、左樣で』

『小川町と云へば神田だぞ……』

『左樣で御座んす。その邊で立ち寄るところがあるから、もう歸つてもいゝと云ひますので』

『それから、その老爺はどうした』

『それッ切り何處へ行きやしたか、あつし共にも判りません』

『宇治政へ行つて見たらうなア』

『いゝえ、駄賃はちやんと貰えやしたし、別に行く用もありやせんので、そのまゝですが』

『行かない、それでもお前先刻、本郷からの歸り途。粹興な客を乘つけて品川迄――と云つたが、何しに本郷まで行つたんだ小川町なら神田で、矢の倉へ歸るのだつて何も本郷まで遠廻りをする要はなし、それても、品川へ行くのなら別から直ぐお客を拾つたにしに本郷へ掛からねわでもいゝ譯だが、おかしいぢやねえか』

勘コロ駕籠屋に片言隻句も聞き洩らしてゐない茂十の問ひに、流石口上手の勘太と小六も、ぐーつと詰つて目を白黒させてゐる。

『いつもの探索心から、行つて見る氣になつて出掛けたんだらう』

『へツ、へツ、へツ御冗談ばつかり』

『いや、冗談ぢやアねえ、さ、これから一番、大急ぎでやつてくれ』

『どちらへ、で御座んす親分……』

『知れてるぢやねえか、宇治政だ』

『へえ……』

『どうしたんだ、何を愁いてゐる。早く駕籠の支度をするんだ』

『それぢや、矢ッ張りあの老爺が怪しかつたんで御座んすね』

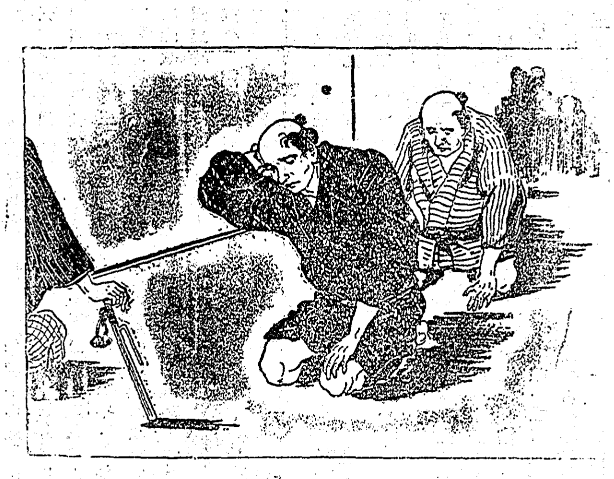
『さうだ、てつきり彼奴を髑髏組の首領と睨んだのだ急ぐんだぞ』

『よう御座んす』

二人は、最早、髑髏組の運命もこれまでだ――と觀念した。

(今更どうにもならない。ねゝまゝよ、行くところまで行つて、自分達の身の處置を決するんだ)

と、覺悟して、一か八、捨鉢氣分で茂十を駕籠へ乘せた



廣告

おでん 一平(イッパイ) 電話二六三番

酒とマヅイ おでんの紫ちやん 平市田町花ノ里 電話三三番

絶對無臭ノ毎日炭
專賣特許ノ毎日炭ハ酸化炭素ヲ含マス本邦唯一ノ衛生經濟燃料
◎經濟價値木炭ノ優ニ三倍
◎火付ヨク木炭ト同樣
◎火力强ク火持長ク德用
飛火立消ナク水消後再度使用
◇木炭十俵以上御買上ハ特ニ勉强シマス◇
製造元 清水產業株式會社
木炭 ミツ練炭 ウロコ豆炭 卸業 販賣
平一丁目角 市原商店 電二四四

メガネは正確にして廉價
最新式各國製レンズ
眼鏡
富豊に取揃へて御座います
(亂視用眼鏡即時調製)
根本時計店
平市二丁目 電話六七〇

夜間診療
胃腸性病
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科 專門
(見習看護婦募集)
松村胃腸性病科醫院
(平市南町電一〇七番)

京染の御用
平出身 京都 青木へ
袷一掛より振袖まで各種
紋付物特價販賣(生地代染代共)
男モノ ○羽二重上等 黒紋付 二〇、〇〇圓
女モノ ○小濱縮緬 黒紋付 一七、〇〇 色紋付 一五、〇〇
○東雲(又ハ美尙) 黒紋付 一八、五〇 色紋付 一六、五〇
○東雲エバモノ金糸、銀糸、女糸ニテヌイトリモヨウ入 黒紋付 二三、〇〇 色紋付 二一、〇〇
○注文の節は寸法書、紋數、紋の名記入、半金送金のこと
送金は振替京都八、三八七番を御利用下さい
京都市左京區岡崎
染元 青木京染店
店主 平小學校卒業中十二回卒 青木淳
取次店募集

恐るべき惡疫防止に安全、確實な內服ワクチンをおすゝめ致します
三共製チフス內服ワクチン
大人(一人分)二〇セン 小兒(二人分)
――十五歳以上の方から大人の量です――
三共株式會社製品總代理店
西村屋藥局
平市本町二丁目 電話三番

男女工員募集
東北一の大工場
從業人員四千餘名
製品、人絹、ソーダ、二流化炭素晒粉、過鱗酸
昭和人絹錦工場
男十六才……三十才まで
女十三才……二十五才まで
御入社御希望者は御申込下さい
詳細御通知、又は參上面談
石城郡錦村大倉
鈴木林

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平市田町(電話五八番) 磐田女學校前
『入院のお需めに應ず』
(看護婦及び見習看護婦募集)
齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木政
鈴木醫院
內郷村高坂 磐炭病院前

外科(內臟外科及一般外科)
X光線科、花柳病
內科、小兒科
(自炊ノ便アリ病室完備)
岩手醫學士 萬波勳
院長 前田清美
前田醫院
田町本町電話一二四番

ニツポン・魚は凍魚
日本水産特約
平製氷會社
電三二八・三二六番
タヒ 甘鯛
エビ マナ鰹
白魚 帆立貝柱
冷カヅノコ ウニ貝燒
ヒノマル凍魚
四ツ倉 丸印魚問屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者 强口唯七郎
自動車部 電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。

精神病科
脳脊髓病科
神經病科
內務省指定
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎

銘木(床ノ間材)
天井板、ベニヤ板買ふなら確かに御期待に添ふ良品廉價の
㋐織田材木商店へ
福島縣平市 電話平四六〇番
營業 建築木材一式 銘木・ベニヤ板 秋田杉四分板 雜具材・便利瓦
一度見せる勉强振りを、ぜひ一度お試しを乞ふ

價格監督機關の出現を待望する地方住民

騰貴を見越した新策戰　顯著な平商店街

近來に於ける異常な物價騰貴は當局を驅つて遂に生活必需品の價格監督機關創設を計劃せしむるに至り、時恰も十三年度尨大豫算の實施に因る物資需要の激增、通貨の大膨脹と相俟つて一般物價の昂騰に拍車するが當然と觀られる今日、之の戰時体制下に於ける物價の暴騰を抑制せんとする施設は、其の關係が總ゆる階層に最も廣汎な普遍性を持つて居る丈け目下各方面の重大な關心を唆つてゐるが之より先き拔き打ち的な物價騰貴の傾向は平市内等に於ても最も顯著に行はれ中には需給上何等原因と認むべき物無くして果斷な騰貴が行はれたものすら絶無ではなく而も將來の騰貴を見越した買ひ惜みなど今後該法の實施により暴利取締令の威力を充分に發揮し得る形勢になつて來た事は單り都市在住者のみでなく一般の被る恩惠も蓋し少くあるまいとしてその成果を期待されてゐる

いつ迄續く根比べ

中野氏の特戸異議問題

今では平市と根比べのかたちとなつてゐる市内大町中野勇吉氏の特別税戶數割賦課異議問題は右い分は先年來行政裁判所に出訴中であるが十二年度前期分も市長に對する異議申立てが却下されたので更に縣參事會へ訴願近く審議されるので平市としては昨報の如く二十六日開かれる參事會でこれに對する『言ひ分』を決定するわけであるが内容が同じなところから從來通りに出るは必然のことであり、この分も結局行政裁判所へ出訴するではないかと觀られてゐる

磐女も口頭

雜問の出題に就き　昨本紙記事正誤

市内男女三中等學校に於ける來月執行の入學考査に關し、最初の國語、算術以外新に課する事になつた雜問（地理、歷史、理科）を磐女は筆記試驗により、他は口頭による旨昨報したが右は磐女も他校同樣の方針に出るものを或種の錯誤から筆記と報道したものに付き茲に之を正誤す

製作見習工募集

平職業紹介所に某製作所から見習工斡旋の依賴があつた、資格は高等小學校或は中等學校（工業學校も含む）卒業者で滿十六才以上二十四才迄のもの、志望者は詳細同所で問ひ合せの上至急申込まれたいと

平市新豫算內示さる

公設質屋は特別會計

市制實施後全年分として最初の平市十三年度豫算は今二十五日午前十時からマルトモホールに於て內示された、その總額は（括弧內前年對比增減但し前年度豫算は六月以降三月迄の分）

歳入＝税外收入一九九、七一四圓（二四七、三一五圓減）税收入二二一、四六六圓（五三、六二〇圓增）計四二一、一八〇圓（一九三、六九五圓減）

歳出＝經常部二九三、五六〇圓（五五、五八三圓增）臨時部一二七、六二〇圓（二四九、二七八圓減）計四二一、一八〇圓（一九三、六九五圓減）

尙社會課の新事業である六萬圓の公設質屋は特別會計として提案、全額を借入れることになる

歳入補塡の爲

戶數割引上（平均二四圓七九錢）

歳入　歳入の部は國庫下渡金が前年の二千九百五圓に對し八千七百五十四圓減の二萬九千百五圓、市税は既報の如く歳入補塡のため五萬三千六百二十圓增額されてその額二十二萬一千四百六十六圓、その主なるものは地租附加税一二、六二九圓（一〇五二三圓增）營業收益税附加税一四、八四〇圓（二、二六七圓增）特別税戶數割一三七、八三二圓（三九、六二九圓增、一戶平均二四圓七九錢）補給金は廢減税分の四千五百三圓が計上され又前年度に十三萬圓計上された市債はこれを全廢、靑沼財政の堅實振りを見せてゐる

事變、防空費計上

物價騰貴、經常部增額

歳出　一方歳出經常部は物價の昂騰によつて殆と增額され、その主なるものを擧げれば小學校費九萬九千二百十七圓（一八、一二〇圓增）土木費一萬六千八百二十九圓（六、六〇五圓同）役場費六五、四六六圓（八、一六三圓同）水道費一萬六千六百四十一圓（三、九一八圓同）警備費八千九百圓（一〇〇圓減）

同臨時部は反對にその大部分が削減され土木費二五、五五九圓（二一、一二九圓減）警備費二、六六圓（三、〇三四圓同）水道費九、一五六圓（六、〇六二圓同）が主

新規計上では特別會計繰入の千八百九十三圓を筆頭に事變費千七百圓防空費五百圓、財産費千二百五十圓等で公會堂竣功祝賀費二千五百圓土地會拂代支出額千三百五十圓等は計上されない

尙犒軍費其他時局に關した一切のものは事變費に含まれてゐる

豫算市會二十八日

內示を終へて豫算市會を二十八日午前十時から招集左記諸件を附議する

昭和十三年度平市歳入歳出豫算　昭和十三年度特別會計基本財産歳入歳出豫算　昭和十二年度特別會計基本財産歳入歳出追加更正豫算　市特別會計設定　昭和十三年度特別會計平市公益質屋歳入歳出豫算　市税賦課率　市税制限外課税　縣税家屋税營業税雜種税附加税不均一賦課　市費寄附　市費補助　小學校基本財産改用戻入方法變更　小學校基本財産土地處分議決變更　條例規則設定並に改正　市金庫事務取扱契約更新　汚物掃除契約更新　昭和十二年事務報告

無免許運轉。。。

好間村北好間好田某（二八）―假名は去る八日無免許で自動車を運轉平署の取調べを受けた

鳥小屋の純益で慰問

鎌田靑年銃後運動

市內鎌田靑年團では同町出身の第一線勇士慰問のため鳥小屋の純益と團員各自が五十錢宛醵出して慰問袋を作製、これに夫々激勵と慰問の手紙を同封して發送することゝなつた

故吉田所長追悼號發行

入山で全從業員に配る

入山自治會では此程號外として『故吉田所長追悼號』を發行し全山職員從業員に配付して德望の高かつた故所長に對する追憶を新ならしめたが、內容は盛大であつた去る十日の社葬記事を冒頭に島岡社長、渡邊專務、大貫現所長、大越職員代表松繁自治會長、入山採炭特約販賣店、松田在鄕軍人會長、八卷署長、高橋水戶運輸事務所長、松平帝國軍人後援會長、前川常磐礦業會理事長、學士會、櫻田入山校兒童總代の弔辭及び石川湯本町長矢吹同町議、遊沼縣議、濱崎磐炭副所長、松田事務部長、岩堀入山校長、小松八仙寮主、鯨岡會計係長、上野靑葉寮主の追憶記、全山の平癒祈願に關する本紙記事復錄等惻々人を動かす底の文字に滿ちたものである

陣中を聽く

(97)

我が軍の敵ではない　忽ち十一機を擊墜す

市內胡摩澤出身　酒井新太郎君（通信）

――赤井嶽

嚴しの寒い今日此頃、御家內皆樣にはお變りありませんか、定めし御壯健にて御暮らしの事と思ひます。お蔭を以て無事に勤めて居りますから御安心下さい。內地を出發してより本月に至る約半年の月日が流れて居ります、早いものです。良も嶋き寒さ來りて新春を迎へました、定めし御地はお爲正月の事とて慌しい事でせう。二日の初賣りなど又た別ですからね。小生らは上陸第一歩から今日になる迄十度以上も〇〇になり、津浦線と平漢線の中間を十月の月に順德まで（南方五里）前進致し天津の〇部に引上げ、それより德縣から前に平原迄進みました、その時（略）保定に五十日居りました（略）

でも北支に我らの足跡を少しではあるが行くことの出來ました今又〇〇へと進みつつあります。―昨夜の事當地から南方二十五里の地點に敵機が二十機翼を揃へて我が軍に向つて來たが我が空軍の敵ではない、十一機も打ち落され殘機は蜘蛛の子を散らすやうに逃げて行きました。

今や北支も我が軍の手により安定しつつあります（後略）

二月六日朧燭の下にて

大任に服す

市內四町出身　鈴木市四郎君

――お蔭を以て去る十一月上海上陸以來至極元氣にて軍務に服し居候間他事乍ら御休心下され度候

南京抗州も陷落し茲に攻城野戰の一段落を劃し輝かしき新春を廣德城外に迎へ去る一月八日〇〇に無事到着、爾來來るべき戰局の準備旁々殘敵掃蕩と警備の大任に服し居り候間今後共一層の御指導御鞭撻の程偏に御願ひ申上候

湖州は復興

市內立町出身　郡司朝男君

―兄上樣が〇〇の方へ御出征なされたさうですね（略）湖州治安維持せられて電燈も點いて居りますし商業もめましたからね、小生ら一月一日通る時は汽車は平望鎭と上海間は通る樣になりましたからね、本日あたりは南京迄通しる事が出來ると思ひます、安全の事は大丈夫と思ふ。小生ら南京攻擊後上海に集結しました、今月五日着致して（後略）

一月八日

新しき土、開拓の若き使者

滿蒙義勇團二百六十　けふ平市に勢ぞろひ

希望は躍る滿蒙へ！新しき土開拓の重大使命を擔つた若き使者―總勢二百五十九名の滿蒙開拓靑少年義勇團先遣隊の一行は既報の如く今二十五日平市に勢揃ひ、一泊の上明二十六日は午前八時祈願祭（縣社子鍬倉神社）同十時壯行會（第一小學校講堂）に臨み同日午後零時四十九分で茨城縣內原訓練所へ向つて晴の出發をする、行け！鍬取る戰士よ健かなれ。郡下の合格者十五名の氏名左の如し

（玉川）小泉幸一郎（赤井）柴崎秀男（同）佐藤夏雄（澤渡）加藤洋（同）加藤安利（同）加勝文丸（三阪）齋藤二郎（上小川）佐久間勝根本忠清、國井重信、丹野勝美、吉田伍郞、草野才（川前）宇佐美豐、宇佐美正男

服裝も凜々しく　若人の意氣高し

內原訓練所から渡滿

義勇團員はみんな十六才乃至十九才の若いもの同志、今二十五日縣下各方面二百六十九名の一行を迎へた市役所では縣の係員と共に驛構內に案內所を設けて種々便宜をはかつた午後四時市役所前に勢揃ひした一行は學生服或は靑年團服姿も凜々しく、左胸間につけた『靑少年義勇團』の白布にも何となく大陸を目指す若人の意氣が感じられた、間もなく縣係員の指揮によつて、定められた市內十四宿舍へ向つたが割當り左の如く本郡の十五名は紺屋町炭屋旅館である、市役所では夫々記念品を贈つて前途を祝福した尙一行は二十六日午後三時十一分內原着、訓練所に入るがこゝで二ケ月訓練を受けた後愈よ滿蒙へ雄飛、更に向ふ三ケ年間訓練を受けて夫々本人の希望に向つて開拓の第一歩を踏み出すわけであるがその殆ど大部分は主として農業を營むことになるだらうと云はれてゐる

住吉屋支店五〇、同本店四八、扇屋、炭屋、和泉屋各二〇、開盛館、丸滿小野新各一五、大村屋、水戶屋、福住、鶴屋、松崎屋各一〇、とらや六

平市農會總代選擧

平市農會誕生後最初の總代人選擧は昨報の如く愈よ明後二十七日舊平町分は平園体事務所、舊平窪分は元村役場で執行、三十二名の初代總代人が選ばれることとなる

有權者は全部で千百名その資格は一反步以上の田畑所有者で農會員たることゝなつてゐるのでうち若干名の女有權者も交つてゐる、それに神社佛閣、會社等も資格あり、これらは何れもその代表者が尊い一票を行使するわけである

第一區候補者

前記市農會總代選擧を前に第一區（舊平町）では左の諸氏が名乘をあげた

猪狩彌作、猪狩吉、猪狩忠喜、花源兎五六、大野倉七、吉田寅之助、高木伊勢松、松崎長太郎、松崎啓太郎、荒川恒次郎、靑木甚平、三森清重、諸橋久太郎、諸橋國松、關內正一、鈴木重太郎

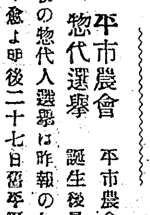
代理店　（文）魁文堂
雲州神國印ソロバン
優勝印高級ソロバン
ニコノ印高級ソロバン
ドンコ帳簿・ライカ帳簿
ウヱル萬年筆
ライトインキ
ムツソリイニペン
ゼネラル、カーボン紙

內藏氏寄附

市內田町一九內藏悌治氏は二男敏二君應召に際し送別費を節約して金二十圓を恤兵金として二十五日市役所へ寄託

二十六日（小名濱潮汐豫報）

滿潮　前四、〇〇　後〇、二五
干潮　前八、五五　後三、五五



舊正月二十六日　土曜　己丑　先負　閉　柳宿　新二月二十六日

諸判定所　東京市本鄕區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠

▲一白　にんたいがかん要なる日人としようとつせぬ樣にすべし▲二黑　人の事に就き間違ひ失費多し差ひかへるが吉▲三碧　人より申込まるゝ事は成るべくさけるが安全▲四綠　輕卒なる時は失敗を招く時に商事は尤注意▲五黃　盆げきの變化を生じ易き日細心の注意を要す▲六白　運氣未だ十分ならされどはげめば功ある日▲七赤　人目を容れもう動をつゝしむ時は大に發展すべし▲八白　平和を主とすれば諸事順調に運び行くべし▲九紫　午前は大吉なれど午後は何事も手ひかへすべし

平市田町　高久病院（電話五三一番）
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科
（看護婦至急募集）

旅舍　大幸館
東京上野驛前　下谷郵便局横通角
電話下谷（83）六七七番
私は平市出身ですから特に鄕里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人　比佐棟雄

ベークライト職工見習募集
一、募集人員三十名
一、年齢十四歳以上二十歳迄ノ男子
一、待遇
十四歳―十六歳日給七十五錢
十七歳―十八歳　八十錢
十九歳―二十歳　一圓
技術修得ト共ニ漸次昇給ス
一、寄宿舍の設備アリ、賄料ハ實費トス
一、申込所　平市職業紹介所
詳細ハ、ミクニ工業所若クハ平職業紹介所ニ問合ハセラレタシ
東京市大森區大森町入新井町七丁目二六二
ミクニ工業所　電話大森六九〇九番

吸入用酸素
度量衡　モノサシ　マス　ハカリ
計量器　体温器　寒暖計
開內藥局　電話四〇番

皇軍を慰問しませう
慰問袋に……
鄕土色滿點の
「潮の華」
慰問品に限り勉强致します。
電話六六八
平五　泉屋菓子舖